

平成 30 年 10 月 3 日
独立行政法人日本学術振興会
科学研究費委員会

平成 30 年度科研費等の審査に係る総括

平成 30 年度科研費及び平成 29 年度国際共同研究加速基金（帰国発展研究）の日本学術振興会審査担当分の応募受付から審査終了までの総括は以下のとおりである。

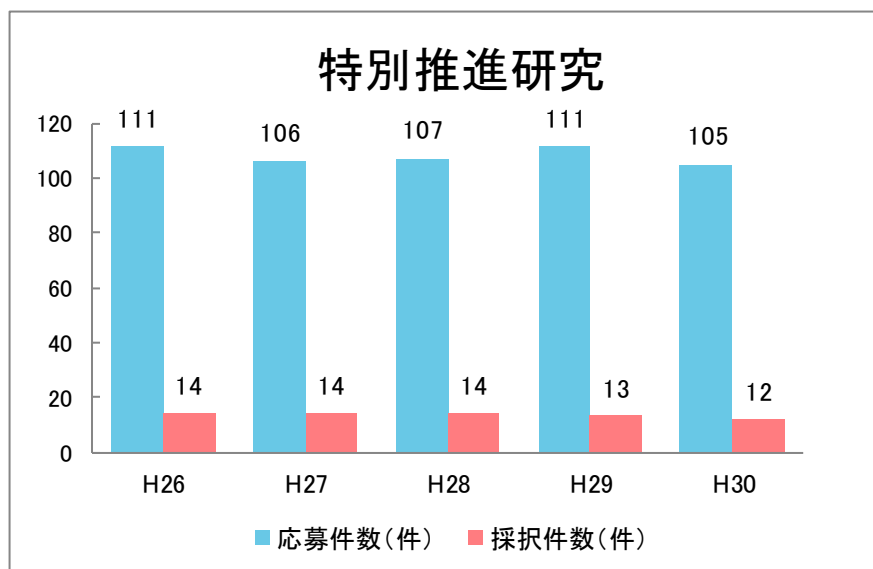
1. 全体のまとめ

(1) 研究種目ごとの審査結果（新規応募・採択状況）

①特別推進研究

応募件数は 105 件（前年度 111 件）、採択件数は 12 件（同 13 件）であった。

（参考）過去の推移



②基盤研究

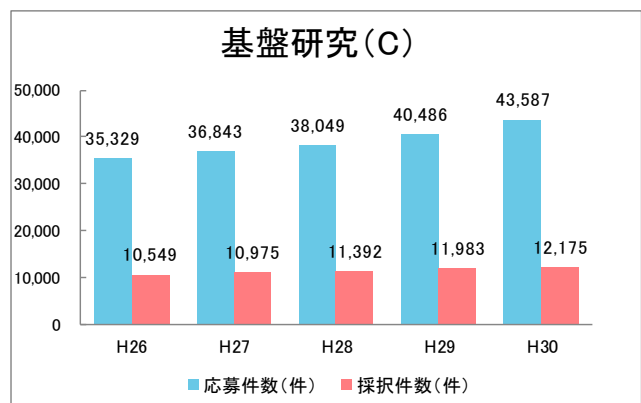
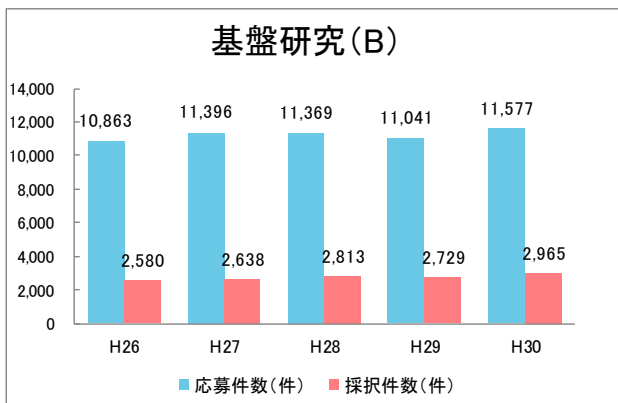
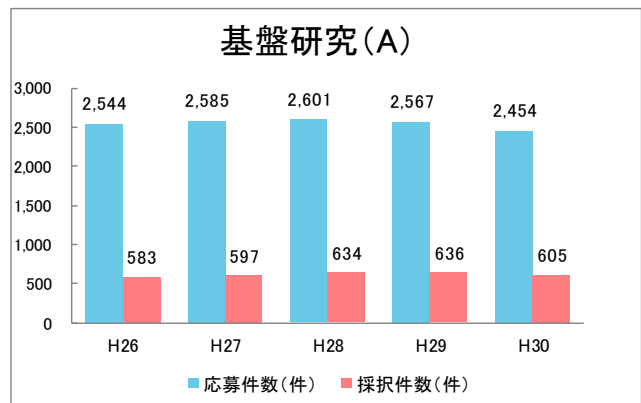
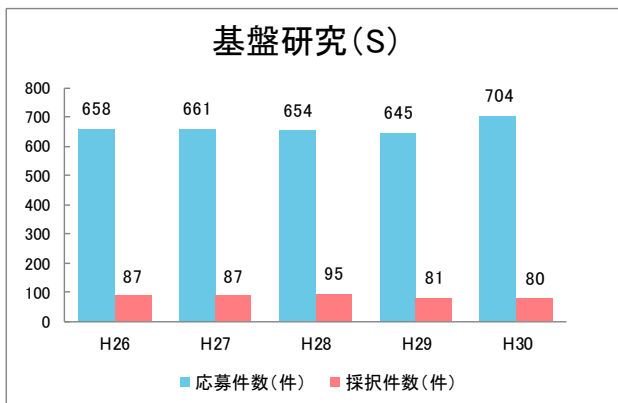
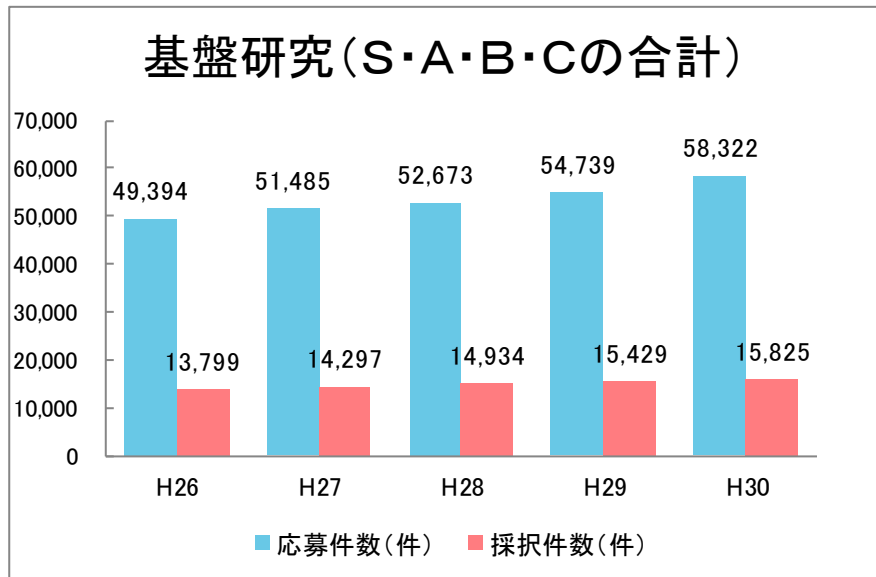
「基盤研究」全体での新規応募件数は 58,322 件（前年度 54,739 件）、採択件数は 15,825 件（同 15,429 件）であり、前年度より応募・採択件数ともに増加した。

新規応募件数の増加は、平成 30 年度から若手研究（A）を基盤研究に統合し、若手研究（A）の公募を停止したことにより、従来の若手研究（A）の応募者が、基盤研究に移行したことも一因と考えられる。

また、各研究種目における応募件数について、基盤研究（S・B・C）はそれぞれ 704 件（前年度 645 件）、11,577 件（同 11,041 件）、43,5

87件（同40, 486件）であり、前年度より増加し、基盤研究（A）は2,454件（同2,567件）であり、前年度より減少した。

（参考）過去の推移



③基盤研究（B・C）（審査区分「特設分野研究」）

特設分野研究は、採択予定課題数を「分野ごとに30件以内」と設定した上で公募を行った。

基盤研究（B・C）（特設分野研究）全体の新規応募件数は1,218件、採択件数は100件となり、特設分野ごとの新規応募件数、採択件数は下表のとおりであった。

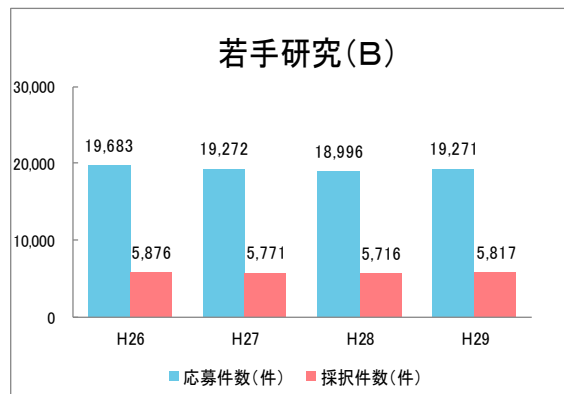
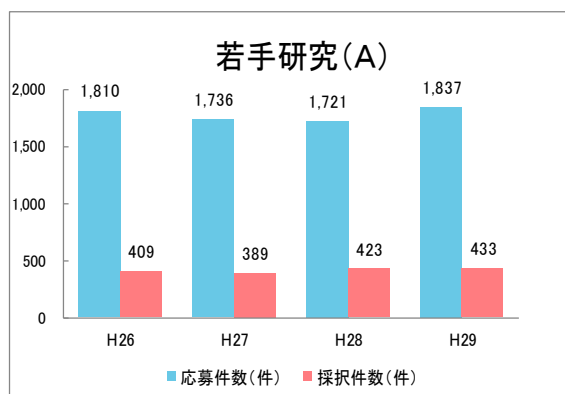
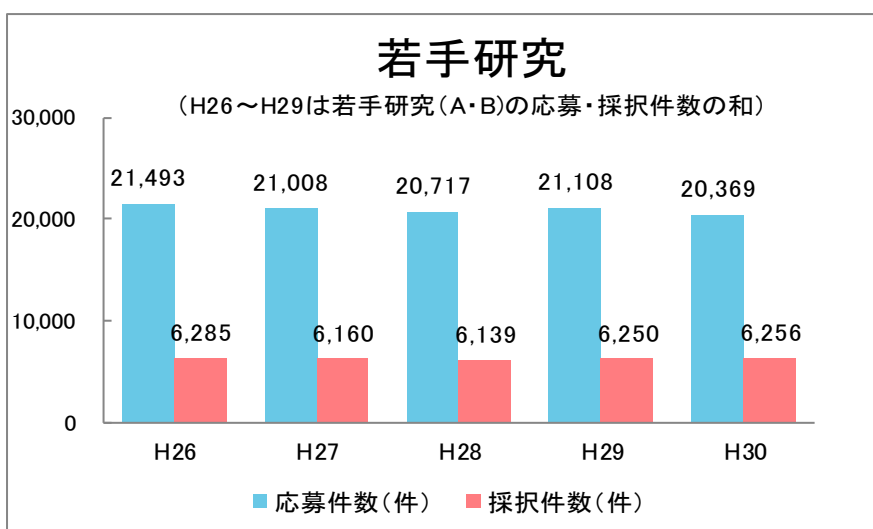
	グローバル・スタディーズ	人工物システムの強化	複雑系疾病論
応募件数	172件 〔 基盤（B） 70件 基盤（C） 102件 〕	111件 〔 基盤（B） 59件 基盤（C） 52件 〕	300件 〔 基盤（B） 120件 基盤（C） 180件 〕
採択件数	16件 〔 基盤（B） 10件 基盤（C） 6件 〕	11件 〔 基盤（B） 4件 基盤（C） 7件 〕	23件 〔 基盤（B） 13件 基盤（C） 10件 〕

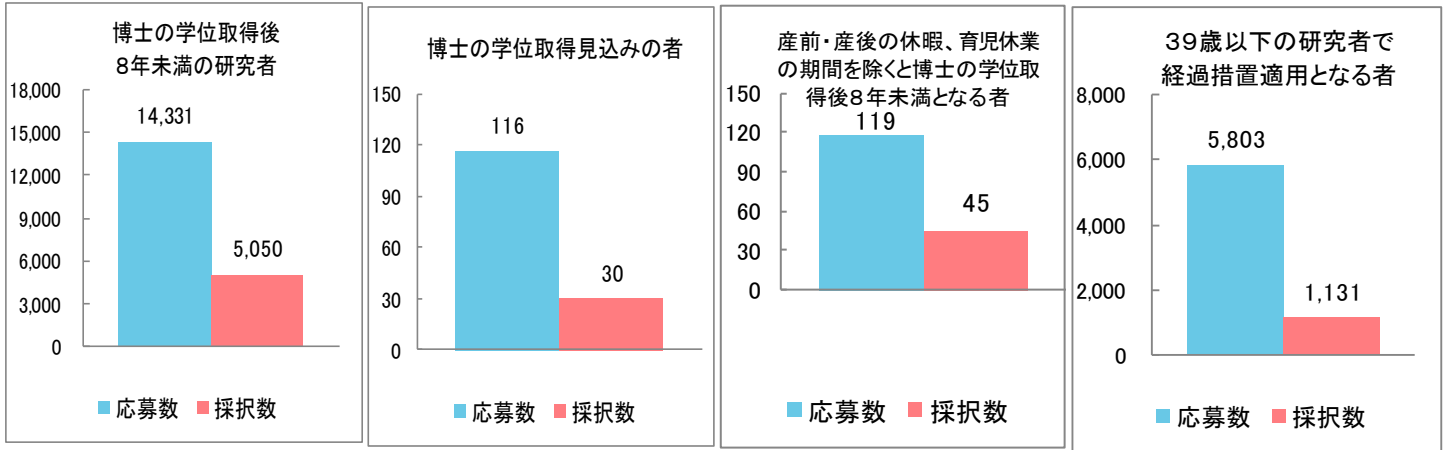
	オラリティと社会	次世代の農資源利用	情報社会におけるトラスト
応募件数	190件 〔 基盤（B） 61件 基盤（C） 129件 〕	356件 〔 基盤（B） 166件 基盤（C） 190件 〕	89件 〔 基盤（B） 34件 基盤（C） 55件 〕
採択件数	20件 〔 基盤（B） 9件 基盤（C） 11件 〕	22件 〔 基盤（B） 12件 基盤（C） 10件 〕	8件 〔 基盤（B） 3件 基盤（C） 5件 〕

④若手研究

「若手研究」全体での新規応募件数は20,369件（前年度21,108件）、採択件数は6,256件（同6,250件）であり、前年度より応募件数は減少したが採択件数は増加した。新規応募件数の減少は、平成30年度から若手研究（A）（前年度1,837件）を基盤研究に統合し、若手研究（A）の公募を停止したことにより、従来の若手研究（A）の応募者が、基盤研究に移行したことや、若手研究の応募要件が変更となったことが一因と考えられる。今年度の応募に関して、平成30年4月1日までに博士の学位取得後8年未満の研究者による応募は14,331件、平成30年4月1日までに博士の学位を取得見込みの研究者による応募は116件、博士の学位取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後8年未満となる研究者による応募は119件、39歳以下の博士の学位未取得の研究者で、経過措置の適用となる研究者による応募は5,803件であった。また、採択件数はそれぞれ5,050件、30件、45件、1,131件であった。

（参考）過去の推移

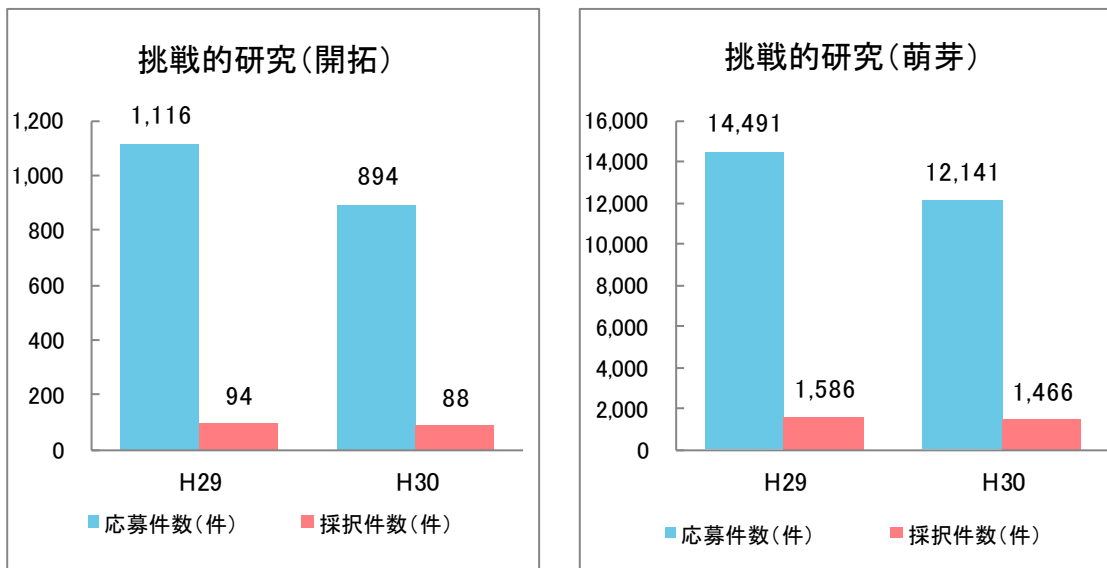




⑤挑戦的研究

新規応募件数は（開拓）が894件（前年度1,116件）、（萌芽）が12,141件（前年度14,491件）であり、採択件数はそれぞれ88件（前年度94件）、1,466件（前年度1,586件）であった。また本研究種目では予算の範囲で応募額を最大限尊重した配分を行った結果、充足率は（開拓）で99.5%、（萌芽）で96.8%となった。

（参考）過去の推移



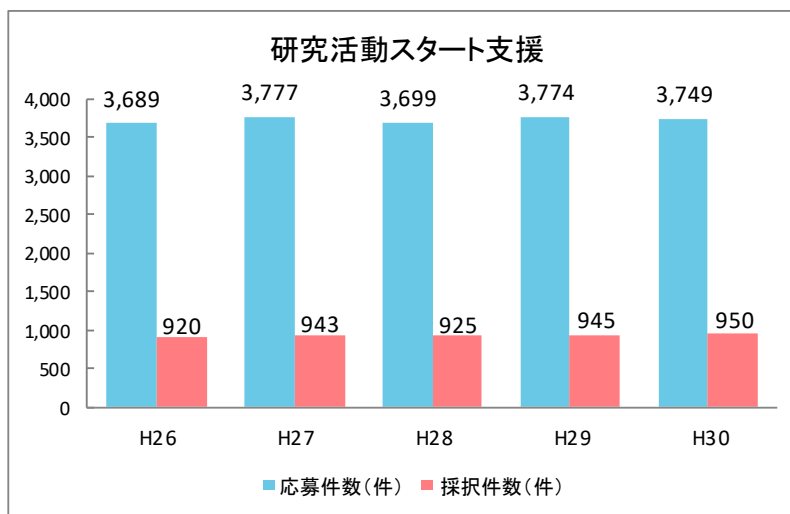
⑥研究活動スタート支援

本研究種目の応募資格は、A)平成29年9月に公募を行った研究種目の応募締切日の翌日以降に応募資格を得たため、応募できなかった者及びB)応募資格は得ていたが、産前産後の休暇又は育児休業を取得していたため、平成29年9月に公募を行った研究種目に応募できなかった者としている。

応募資格A)の新規応募件数は3,644件(前年度3,682件)、採択件数は919件(同924件)で、応募資格B)の新規応募件数は105件(前年度92件)、採択件数31件(同21件)となった。

上記を合計すると、平成30年度の新規応募件数は3,749件(前年度3,774件)、採択件数は950件(同945件)であった。

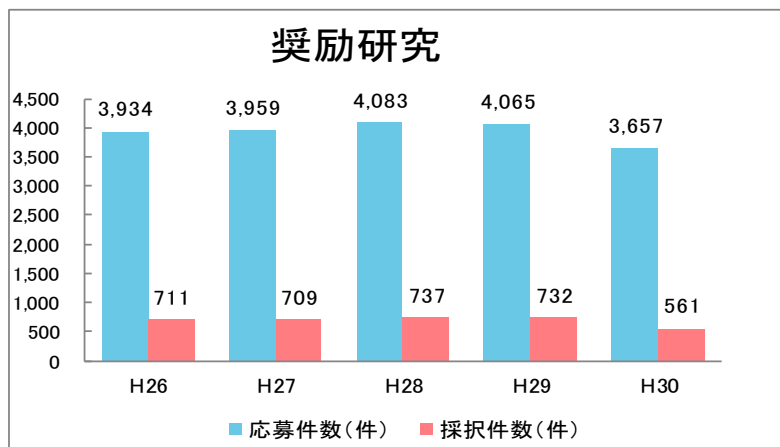
(参考)過去の推移



⑦奨励研究

平成30年度から紙による応募から電子申請システムによる応募を開始した。応募件数は3,657件(前年度4,065件)、採択件数は561件(同732件)であり、前年度より応募・採択件数とも減少している。本研究は、科研費応募資格がない者を対象に教育的・社会的意義を有する研究を助成し奨励することを目的としている。

(参考)過去の推移

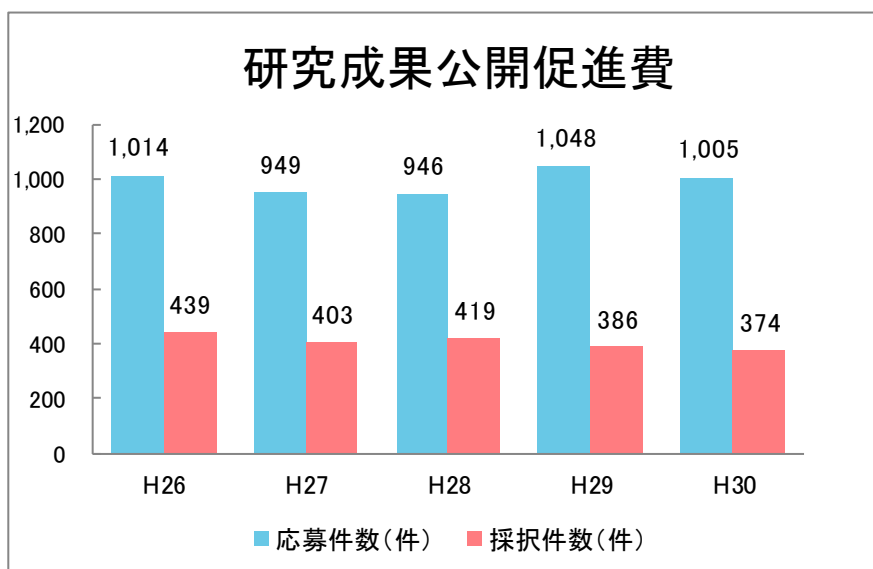


⑧研究成果公開促進費（研究成果公开发表、国際情報発信強化、学術図書、データベース）

「研究成果公開促進費」全体での応募件数は1,005件（前年度1,048件）、採択件数は374件（同386件）であった。なお、応募件数及び採択件数の内訳は、「研究成果公开发表」の応募件数89件（前年度95件）、採択件数44件（同37件）、「国際情報発信強化」の応募件数44件（前年度46件）、採択件数15件（同16件）、「学術図書」の応募件数747件（前年度772件）、採択件数271件（同281件）、「データベース」の応募件数125件（前年度135件）、採択件数44件（同52件）であった。

「学術図書」に関しては、専門家による見積書の検証を行い、より適正な配分額を算定した。

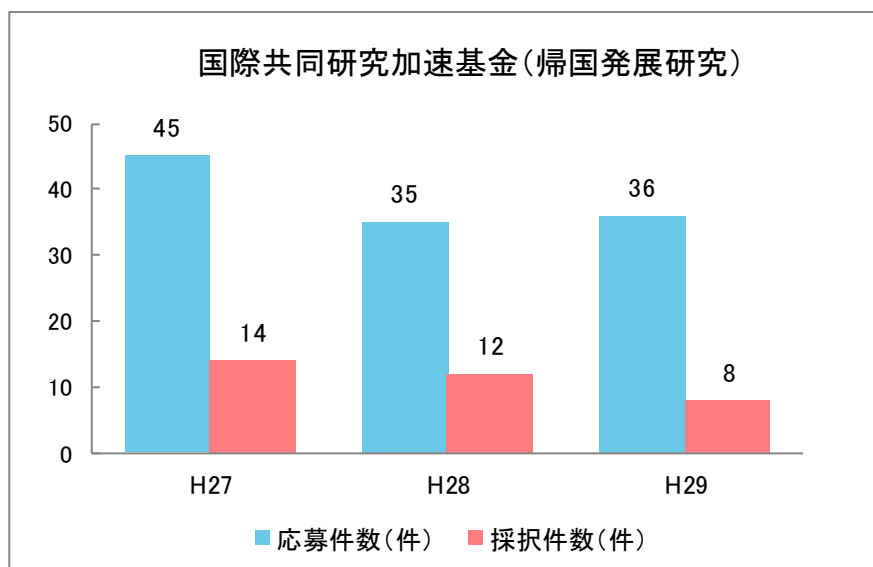
（参考）過去の推移



⑨国際共同研究加速基金（帰国発展研究）

「国際共同研究加速基金（帰国発展研究）」の平成29年9月公募分の応募件数は36件（前年度35件）、採択件数は8件（同12件）であった。

（参考）過去の推移



(2) 主な制度改善等

① 科研費審査システム改革2018の実施

平成30年度より、科研費審査システム改革2018に基づき、新たな審査区分、新たな審査方式の下で審査を行った。審査区分については、従来の「系・分野・分科・細目表」を廃止し、「小区分・中区分・大区分」で構成される「科学研究費助成事業 審査区分表」で審査を行った。

審査方式については、特別推進研究、基盤研究（S・A）、基盤研究（B・C）（応募区分「特設分野研究」）、挑戦的研究、国際共同研究加速基金（帰国発展研究）の審査は、書面審査を行った上で、同一の審査委員が合議審査を行う「総合審査」で審査を行った。さらに、特別推進研究、基盤研究（S）及び国際共同研究加速基金（帰国発展研究）については、専門分野が近い研究者が作成する審査意見書を、書面審査、合議審査で活用するとともに、特別推進研究及び基盤研究（S）ではヒアリング審査を行った。

基盤研究（B・C）（応募区分「一般」）、若手研究の審査は、書面審査委員が2段階にわたり書面審査を実施する「2段階書面審査」で審査を行った。

主な研究種目における具体的な状況は以下の通りであった。今後とも新しい審査の仕組みの定着に向けて、更なる検討・改善を行う必要がある。

<総合審査方式>

○ 基盤研究（A）

審査会終了後、審査委員、学術システム研究センター研究員双方より、新しい総合審査方式について、相当数の肯定的な意見があった。主な意見としては、「書面審査により研究課題の内容を理解したうえで、合議では幅広い視点から、研究課題の意義と不足な点を深く議論させ、評価が可能」、「審査区分が広くなり、委員も専門が異なるメンバーで構成され、審査の公正性が増した」、「合議審査を経験し、幅広い分野の学術的意義や方法論を学ぶことができた」との意見があった。なお、更なる議論の深化に資するように、審査資料や合議審査の進め方などについて、今後とも更なる改善に向けて検討していく必要がある。

○ 挑戦的研究

審査会終了後、審査委員、学術システム研究センター研究員双方より、総合審査については「同一人が書面審査を踏まえて合議を行うことによる研究課題に対する理解の深化」や、議論を行うことによる審査の質向上、多角的な審査の実現など、「合議の充実」等の観点から、非常に有意義であるとの肯定的な意見が多く寄せられた。

その一方で、挑戦的研究の趣旨については、新種目導入から2年度目ということもあり、まだ十分に浸透していないとの指摘があり、引き続きその趣旨の徹底に努める必要がある。

また、研究計画調書についても、事前の選考では概要版のみ、書面審査及び合議審査では概要版を除いた本体を用いて審査することが応募者に浸透していないとの指摘があり、研究計画調書の様式及び作成・記入要領において、より明確にその用途を記載するなどの改善を図る必要がある。

＜ 2 段階書面審査方式＞

○ 基盤研究（B・C）（応募区分「一般」）、若手研究

2 段階書面審査のボーダーラインの評点状況について、1 段階目の評点が高得点でも 2 段階目で得点が落ちている事例（又はその逆）もあり、2 段階目で他の審査委員の評価結果（審査意見）を参考に再評価する仕組みが機能しており、審査の質の向上が図られていると考えられる。

審査終了後に審査委員にアンケートを行った結果、多くの審査委員より適切な審査方式であるとの回答が得られた。主な意見としては、「他の審査委員からの指摘が参考になり、多様な視点から再評価が可能となり評価が充実」、「自分が付した評価の妥当性が確認できる」、「他者の評価コメントを参照することで、若手の審査委員（研究者）の育成に寄与する」との意見があった。なお、審査委員からは、審査の質を確保しつつ、審査の効率化及び審査負担軽減に資するよう審査方法の改善に向けた取組を期待するとの意見もあり、今後とも引き続き検討を行う必要がある。

②特別推進研究

- 審査委員の人数は専門性を考慮した上で、議論が可能な人数を配置したことに伴い、理工系小委員会で、ヒアリング対象課題の選定の際に行っていた「数物系科学」、「化学」、「工学」のグループ別審査を取りやめ、審議の実質化を図った。
- 平成 26 年度に明文化した「文部科学省が定める戦略目標に基づき実施される国立研究開発法人科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業」に基づき、JST 戦略的創造研究推進事業により助成することが相応しい課題については採択の対象としないこととしており、審査会において詳細な資料を配付するとともに、ヒアリング時には研究内容、研究経費について応募課題との相違点の精査をより慎重に行い採択を行った。
- ヒアリング審査において、審査委員が使用するヒアリング審査システムを活用し、評点やコメントをパソコンで入力可能とすることにより審査の効率化を図った。

③国際共同研究加速基金（帰国発展研究）

- 平成 28 年度までは審査第一部会において審査を行っていたが、応募状況や審査スケジュール等に鑑み、平成 29 年度から特別推進研究と同じ審査・評価第一部会において審査することとし、より幅広い観点からの審査を行えるよう改善を図った。

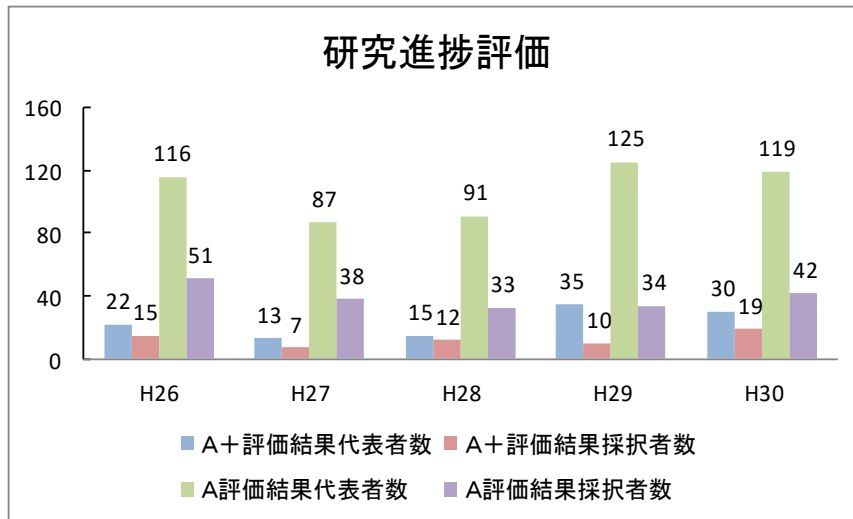
④研究進捗評価結果を次の審査に活かす仕組み

「特別推進研究」等の大型研究種目については、平成 20 年度から従来実施していた中間・事後評価を統一して「研究進捗評価」に改め、平成 21 年度からその評価結果を次の応募の際の研究計画に添付し、当該応募研究課題と進捗評価を受けた研究課題の関連性を審査の際に活用するなど、次の審査に活かす仕組みを導入し、

優れた研究課題を継続して支援できるような審査を行っている。

今回の審査においては、平成28年度及び29年度の評価において「A+」（期待以上の成果が見込まれる）の評価を受けた研究課題の研究代表者のべ30名（前年度35名）のうち、19名（同10名）の研究課題が採択された。また、「A」（期待どおりの成果が見込まれる）の評価を受けた研究課題の研究代表者のべ119名（同125名）のうち、のべ42名（同34名）の研究課題が採択された。

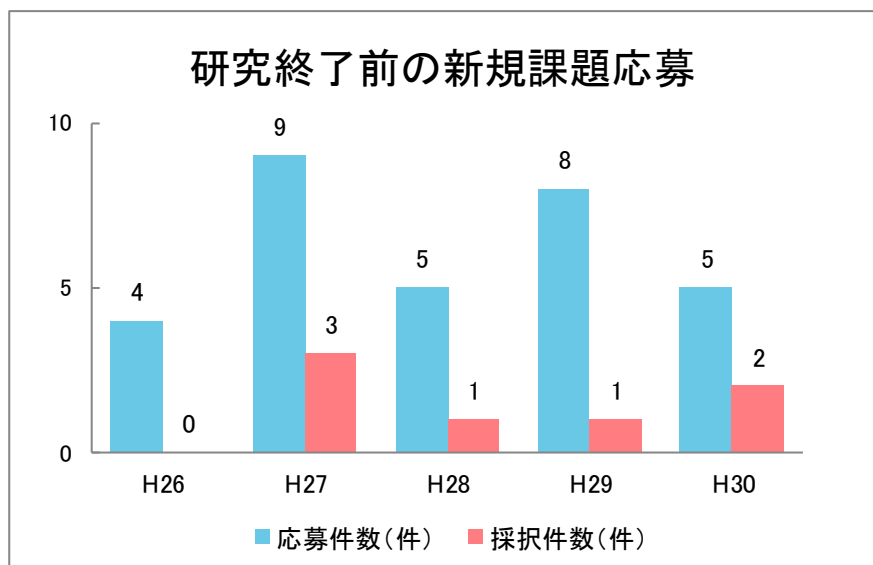
（参考）過去の推移



⑤研究が予想以上に進展した場合に研究期間終了前に新規課題を応募できる仕組み

平成21年度より、継続課題の早期完了を可能とする仕組みが導入され、研究が予想以上に進展した場合に研究期間終了前に新規課題を応募することが可能となった。平成30年度は同制度を用いて5件（前年度8件）の新規課題の応募があり、2件（同1件）の研究課題が採択された。採択された研究課題の内訳は、「基盤研究（A）」1件、「基盤研究（B）」1件であった。

（参考）過去の推移



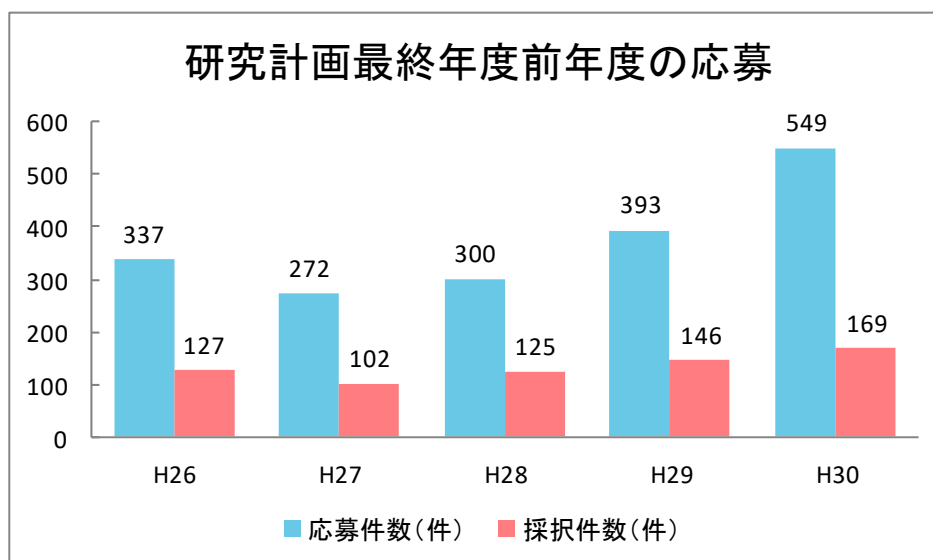
⑥研究計画最終年度前年度の応募

研究計画最終年度前年度の応募について、応募件数は549件（前年度393件）、採択件数は169件（同146件）であった。

「若手研究」から「基盤研究」への研究計画の移行が円滑に図られるように、平成22年度から4年以上の研究期間の課題を対象として「若手研究」を基にした研究計画最終年度前年度の応募を導入しているが、平成30年度より基盤研究（S・A・B）（応募区分「一般」）への応募に限り、継続中の研究課題のうち、3年間の研究計画であっても最終年度前年度の応募を可能とした。平成30年度において、若手研究（A）を基に62件（前年度31件）、若手研究（B）を基に153件（同42件）の応募があった。それぞれ24件（同11件）、32件（同24件）が採択された。このうち、基となる研究課題の研究計画が3年である応募件数は、若手研究（A）を基に28件、若手研究（B）を基に109件であり、それぞれ12件、13件が採択された。

研究費が途切れる心配を少なくし、優れた研究課題が安定して研究できることを目指す研究計画最終年度前年度の応募の仕組みが一定の効果を得ていると考える。

（参考）過去の推移



次に、応募書類の受付から審査の状況、審査結果の概要等をまとめる。

2. 応募書類の受付

応募書類について、研究種目毎に次のとおり受付を行った。

(1) 特別推進研究、基盤研究、若手研究、挑戦的研究、国際共同研究加速基金（帰国発展研究）

「電子申請システム」を活用して、平成29年11月8日（水）を研究計画調書の提出（送信）期限として受付を行った。

(2) 研究成果公開促進費（研究成果公開発表、国際情報発信強化、学術図書、データベ

ース)

「電子申請システム」を活用して、平成29年11月8日(水)を計画調書の提出(送信)期限として受付を行った。

ただし、学術図書の「完成した原稿等の写し」及び国際情報発信強化の「最新刊行物等」については、平成29年11月8日(水)～11月13日(月)を受付期間として、送付により、受付を行った。

(3) 奨励研究

「電子申請システム」を活用し、平成29年11月8日(水)を研究計画調書の提出(送信)期限として受付を行った。

(4) 研究活動スタート支援

「電子申請システム」を活用して、平成30年5月9日(水)を研究計画調書の提出(送信)期限として受付を行った。

3. 審査組織

審査は、科学研究費委員会(別紙1)が、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」に基づき、研究種目毎に次の小委員会等において、5,977名の審査委員により実施した。

なお、5月以降に審査を実施した「基盤研究(審査区分「特設分野研究」)」の審査委員数50名、「挑戦的研究」の審査委員数604名、「研究活動スタート支援」の審査委員248名を加えた審査委員の総数は、6,879名(前年度7,260名)となる。

(1) 特別推進研究及び国際共同研究加速基金(帰国発展研究)

審査・評価第一部会に置かれる専門分野毎の3小委員会(審査委員数26名(以下同じ。))及び運営小委員会(8名)

(2) 基盤研究(S)

審査・評価第二部会に置かれる専門分野毎の17小委員会(85名)及び運営小委員会(19名)

(3) 基盤研究(A)

審査第一部会に置かれる専門分野毎の75小委員会(473名)

(4) 挑戦的研究

挑戦的研究部会に置かれる専門分野毎の90小委員会(604名)

(5) 基盤研究(B)(「特設分野研究」を除く)

審査第二部会に置かれる専門分野毎の307小委員会(1,848名)

(6) 基盤研究(C)(「特設分野研究」を除く)

審査第三部会に置かれる専門分野毎の466小委員会（1,874名）

(7) **基盤研究（B・C）「特設分野研究」**

特設分野研究部会に置かれる専門分野毎の6小委員会（50名）

(8) **若手研究**

審査第四部会に置かれる専門分野毎の350小委員会（1,408名）

(9) **研究活動スタート支援**

審査第五部会に置かれる専門分野毎の62小委員会（248名）

(10) **奨励研究**

奨励研究部会に置かれる専門分野毎の52小委員会（156名）

(11) **研究成果公開促進費（研究成果公開発表、国際情報発信強化、学術図書、データベース）**

成果公開部会に置かれる5小委員会（80名）及び運営小委員会（6名）

4. 審査方法

研究種目毎に、次の審査方法により審査を実施した。

(1) **特別推進研究**

個々の研究課題について、「人文社会系」、「理工系」及び「生物系」の3つの審査区分ごとに、8人～14人の審査委員が、研究計画調書をもとに、専門的知識については、応募研究課題と専門分野が近い研究者が作成する審査意見書（国内及び海外の研究機関に所属する審査意見書作成者、各3名程度が作成）も活用し、幅広い視点から書面審査及びヒアリング対象課題の選定（合議審査）を行い、その後のヒアリング審査等により採択研究課題を決定した。

(2) **基盤研究（S）**

個々の研究課題について、大区分ごとに、6人の審査委員が、研究計画調書と専門分野が近い研究者が作成する審査意見書（国内の研究機関に所属する審査意見書作成者、3名程度が作成）等に基づき、幅広い視点から書面審査及びヒアリング対象課題の選定（合議審査）を行い、その後のヒアリング審査等により採択研究課題を決定した。

(3) **基盤研究（A）**

個々の研究課題について、中区分ごとに6人～8人の審査委員が、幅広い視点から書面審査及び合議審査を行い、採択研究課題を決定した。

(4) **基盤研究（B・C）「一般」、若手研究、**

個々の研究課題について、「基盤研究（B・C）」（応募区分「一般」）及び「若

手研究」は、小区分ごとに、「基盤研究（B）」は6人、「基盤研究（C）」「若手研究」は4人の審査委員が2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定した。

(5) 基盤研究（B・C）「特設分野研究」

個々の研究課題について、特設分野ごとに、8人～10人の審査委員が、審査（事前の選考）を行った上で、書面審査を行い、同一の審査委員が合議審査の場で各応募研究課題について幅広い視点から議論により採択研究課題を決定した。

(6) 挑戦的研究

個々の研究課題について、各小委員会に属する審査委員（6～8名）のうち3名が研究計画調書（概要版）を用いて事前の選考を実施し、採択候補研究課題の絞り込みを行った（応募件数が少ない場合は事前の選考は実施しない）。その後、各小委員会に属する審査委員全員が研究計画調書を用いて書面審査を行い、最終的に合議審査により採択研究課題を決定した。

(7) 研究活動スタート支援

個々の研究課題について、「研究活動スタート支援 審査区分表」の審査区分に基づき、4人の審査委員が2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定した。

(8) 奨励研究

個々の研究課題について、「奨励研究 審査区分表」の審査区分に基づき、3人の審査委員が2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定した。

(9) 国際共同研究加速基金（帰国発展研究）

個々の研究課題について、「人文社会系」、「理工系」及び「生物系」の3つの審査区分ごとに、8人～14人の審査委員が、研究計画調書をもとに、専門分野が近い研究者が作成する審査意見書（国内の研究機関に所属する審査意見書作成者3名が作成）を活用し、幅広い視点から書面審査及び合議審査を行い、採択研究課題を決定した。

(10) 研究成果公開促進費（研究成果公開発表、国際情報発信強化、学術図書、データベース）

① 国際情報発信強化

〔国際情報発信強化（A）・オープンアクセス刊行支援〕

個々の課題について、国際情報発信強化小委員会に属する15名（編集長等経験者9名及び刊行業務等担当者6名）の審査委員が書面審査を実施し、その結果を基にして、小委員会において合議審査によりヒアリング課題を選定し、その後のヒアリング審査により採択課題を決定した。

〔国際情報発信強化（B）〕

個々の課題について、国際情報発信強化小委員会に属する6名～12名（審査を希望する審査区分の編集長等経験者3名（2区分にまたがる場合は6名、3区分にまた

がる場合は9名)及び刊行業務担当者3名)の関連審査委員が書面審査を実施し、その結果を基にして、小委員会において合議審査により採択課題を決定した。

② 研究成果公開発表、学術図書、データベース

個々の課題について、各小委員会に属する3名の関連審査委員が書面審査を実施し、その結果を基にして、各小委員会において合議審査により採択課題を決定した。

5. 審査の経過

各研究種目の審査の経過は次のとおりである。

(1) 特別推進研究

平成29年12月8日(金)～平成30年1月5日(金)に審査意見書作成者(612名)に審査意見書の作成を依頼した。

平成30年1月12日(金)～2月22日(木)に書面審査を実施した。

平成30年2月20日(火)～3月1日(木)に審査・評価第一部会の各小委員会において合議審査を実施し、書面審査の集計結果を踏まえ、ヒアリング研究課題を選定した。

平成30年3月19日(月)～3月29日(木)にヒアリング審査を実施し、採択候補研究課題を選定した。

平成30年4月16日(月)の運営小委員会において、各小委員会の審査結果を踏まえ、採択研究課題を決定した。

(2) 基盤研究(S)

平成29年12月18日(月)～平成30年1月19日(金)に審査意見書作成者(2,112名)に審査意見書の作成を依頼した。

平成30年1月4日(木)～2月13日(火)に書面審査を実施した。平成30年2月28日(水)～3月19日(月)に審査・評価第二部会の各小委員会において合議審査を実施し、書面審査の結果を踏まえ、ヒアリング研究課題を選定した。

平成30年4月17日(火)～5月16日(水)にヒアリング審査を実施し、採択候補研究課題を選定した。

平成30年5月24日(木)の運営小委員会において、各小委員会の審査結果を踏まえ、採択研究課題を決定した。

(3) 基盤研究(A)「一般」

応募件数が多数にのぼった小委員会では、必要に応じて小委員会を分割した上で、平成29年12月5日(火)～平成30年1月15日(月)に書面審査を実施した。

平成30年2月7日(水)～3月7日(水)に審査第一部会の各小委員会において合議審査を実施し、書面審査の結果を踏まえ、採択研究課題を決定した。

(4) 基盤研究(B・C)「一般」、若手研究

応募件数が多数にのぼった小委員会では、必要に応じて小委員会を分割した上で、

平成29年12月5日（火）～平成30年1月15日（月）に1段階目の書面審査を実施した。

1段階目の書面審査の結果を踏まえ、平成30年2月1日（木）～2月15日（木）に2段階目の書面審査を実施し、採択研究課題を決定した。

(5) 基盤研究（B・C）「特設分野研究」

応募件数が多数にのぼったため、一課題あたり審査委員4名で合議審査対象課題の選定のための書面審査（事前の選考）を行うこととし、審査分担を決定した。

平成30年2月1日（木）～2月23日（金）に合議審査対象課題の選定のための事前の選考を実施し、合議審査対象課題を選定した。

平成30年4月2日（月）～5月11日（金）に合議審査対象課題について、審査委員全員により書面審査を実施した。

平成30年6月11日（月）～6月22日（金）に特設分野研究部会の各小委員会において、書面審査結果を参考に合議審査を実施し、採択研究課題を決定した。

(6) 挑戦的研究

応募件数が多数にのぼった小委員会では、必要に応じて小委員会を分割した上で、合議審査対象課題の選定のための事前の選考を、平成29年12月11日（月）～平成30年1月18日（木）に実施した。

次に、平成30年3月1日（木）～4月4日（水）（5月21日以降開催の小委員会については4月17日（火））に合議審査対象課題について、書面審査を実施した。

続いて、平成30年5月7日（月）～6月4日（月）に挑戦的研究部会の各小委員会において、書面審査の結果を参考に合議審査を実施し、採択研究課題を決定した。

(7) 研究活動スタート支援

平成30年6月11日（金）～7月6日（金）に1段階目書面審査を実施した。

1段階目の書面審査の結果を踏まえ、平成30年7月23日（月）～8月1日（水）に2段階目の書面審査を実施し、採択研究課題を決定した。

(8) 奨励研究

平成29年12月11日（月）～平成30年1月15日（月）に1段階目の書面審査を実施した。

1段階目の書面審査の結果を踏まえ、平成30年2月1日（木）～2月15日（木）に2段階目の書面審査を実施し、採択研究課題を決定した。

(9) 国際共同研究加速基金（帰国発展研究）

平成29年12月8日（金）～平成30年1月5日（金）に審査意見書作成者（106名）に審査意見書の作成を依頼した。

平成30年1月12日（金）～2月22日（木）に審査・評価第一部会の各小委員会（審査委員数32名）において書面審査を実施した。

平成30年2月20日（火）～3月1日（木）に合議審査を実施し、書面審査の結果を踏まえ、採択研究課題を決定した。

(10) 研究成果公開促進費（研究成果公開発表、国際情報発信強化、学術図書、データベース）

①国際情報発信強化

平成29年12月19日（火）～平成30年1月18日（木）に書面審査を実施した。

平成30年2月1日（木）に国際情報発信強化小委員会において合議審査を実施し、書面審査の結果を踏まえ、「国際情報発信強化（B）」の採択候補課題を選定し、「国際情報発信強化（A）」、「オープンアクセス刊行支援」のヒアリング課題を選定した。

平成30年3月1日（木）にヒアリング審査を実施し、採択課題を決定した。

②研究成果公開発表、学術図書、データベース

平成29年12月6日（水）～平成30年1月15日（月）に書面審査を実施した。

平成30年2月5日（月）～3月12日（月）に成果公開部会の各小委員会及び運営小委員会において合議審査を実施し、書面審査の結果を踏まえ、採択課題を決定した。

6. 応募・採択等の状況

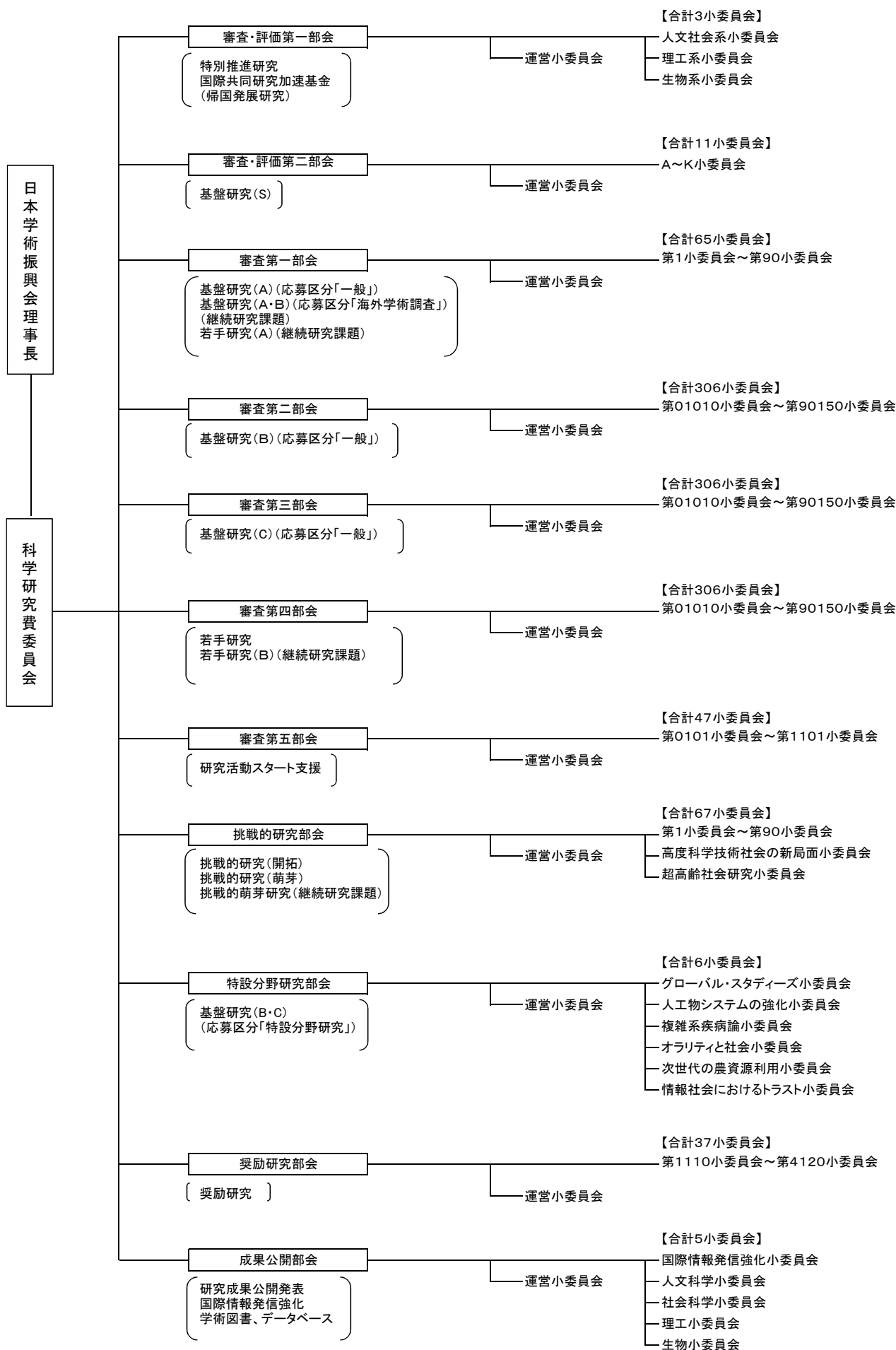
- (1) 平成30年度科研費助成事業の審査結果（研究種目別の応募・採択等の状況）（別紙2）
- (2) 研究機関種別の応募・採択等の状況（別紙3）
- (3) 職種別の応募・採択等の状況（別紙4）
- (4) 男女別の応募・採択等の状況（別紙5）
- (5) 年齢別の応募・採択等の状況（別紙6）

注1）(2)～(5)に記載の配分額は直接経費の配分額を指す。

注2）(2)～(5)について、科研費の審査（ピアレビュー）に当たっては研究者の属性等を考慮した審査は行っていないが、審査結果の参考として集計したもの。

科学研究費委員会組織図

【小委員会合計: 1, 159小委員会(分割は含まない)】



平成30年度科学研究費助成事業の審査結果

(1) 新規採択分

平成30年10月現在

研究種目	研究課題数			研究経費 配分額	1課題当たりの配分額	
	応募	採択	採択率		平均	最高
	件	件	%	千円	千円	千円
科学研究費	[99,404] 99,237	[25,049] 25,158	[25.2] 25.4	[58,185,081] 55,432,746 【 16,549,410 】	[2,323] 2,203	[141,500] 145,100
(1)特別推進研究	[111] 105	[13] 12	[11.7] 11.4	[1,387,900] 1,123,500 【 337,050 】	[106,762] 93,625	[141,500] 145,100
(2)基盤研究(S)	[645] 704	[81] 80	[12.6] 11.4	[3,343,200] 3,279,800 【 983,940 】	[41,274] 40,998	[89,600] 105,100
(3)基盤研究(A)	[2,567] 2,454	[636] 605	[24.8] 24.7	[7,157,300] 7,310,100 【 2,193,030 】	[11,254] 12,083	[32,000] 32,900
(4)基盤研究(B)	[11,041] 11,577	[2,729] 2,965	[24.7] 25.6	[13,757,100] 15,170,200 【 4,551,060 】	[5,041] 5,116	[13,500] 12,800
(5)基盤研究(C)※1	[40,486] 43,587	[11,983] 12,175	[29.6] 27.9	[15,608,300] 15,004,500 【 4,501,350 】	[1,303] 1,232	[3,400] 3,200
(6)挑戦的研究(開拓)	[1,116] 894	[94] 88	[8.4] 9.8	[643,900] 635,800 【 190,740 】	[6,850] 7,225	[16,200] 17,500
(7)挑戦的研究(萌芽)※1	[14,491] 12,141	[1,586] 1,466	[10.9] 12.1	[3,769,800] 3,327,100 【 998,130 】	[2,377] 2,270	[4,700] 4,500
(8)若手研究(A)	[1,837] -	[433] -	[23.6] -	[3,277,700] - 【 - 】	[7,570] -	[18,100] -
(9)若手研究(B)※1	[19,271] -	[5,817] -	[30.2] -	[7,913,600] - 【 - 】	[1,360] -	[3,300] -
(10)若手研究※1、2	[-] 20,369	[-] 6,256	[-] 30.7	[-] 8,273,100 【 2,481,930 】	[-] 1,322	[-] 3,100
(11)研究活動スタート支援	[3,774] 3,749	[945] 950	[25.0] 25.3	[976,300] 1,040,600 【 312,180 】	[1,033] 1,095	[1,500] 1,200
(12)奨励研究	[4,065] 3,657	[732] 561	[18.0] 15.3	[349,981] 268,046	[478] 478	[820] 580
研究成果公開促進費	[1,048] 1,005	[386] 374	[36.8] 37.2	[781,900] 737,100 【 - 】	[2,026] 1,971	[10,200] 35,300
研究成果公開発表	[95] 89	[37] 44	[38.9] 49.4	[73,100] 71,500	[1,976] 1,625	[9,900] 9,000
国際情報発信強化	[46] 44	[16] 15	[34.8] 34.1	[67,600] 100,000	[4,225] 6,667	[8,400] 35,300
学術図書	[772] 747	[281] 271	[36.4] 36.3	[446,800] 429,900	[1,590] 1,586	[10,200] 7,800
データベース	[135] 125	[52] 44	[38.5] 35.2	[194,400] 135,700	[3,738] 3,084	[9,400] 8,100
合計	[100,452] 100,242	[25,435] 25,532	[25.3] 25.5	[58,966,981] 【 17,057,640 】 56,169,846 【 16,549,410 】	[2,318] 2,200	[141,500] 145,100

(注1) 上段〔 〕内は、前年度を示す。

(注2) 【 】は、間接経費(外数)。

(注3) 「特別研究員奨励費」、基盤研究(B・C)「特設分野研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」は含まない。

なお、基盤研究(B・C)「特設分野研究」の平成30年度新規分の応募・採択状況は、応募数(1,218件)、採択数(100件)、配分額(直接経費 294,800千円、間接経費 88,440千円)であった。

(注4) ※1 基金種目であるため、「配分額」欄及び「1課題あたりの配分額」欄には、平成30年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注5) ※2 平成30年度から公募を開始。

平成30年度科学研究費助成事業の審査結果

(2) 新規採択分＋継続分

平成30年10月現在

研究種目	研究課題数			研究経費	1課題当たりの配分額	
	応募	採択	採択率	配分額	平均	最高
	件	件	%	千円	千円	千円
科学研究費	[148,244] 146,635	[73,652] 72,300	[49.7] 49.3	[141,375,074] 138,653,576 [41,515,659]	[1,920] 1,918	[172,000] 162,400
(1)特別推進研究	[166] 160	[68] 67	[41.0] 41.9	[5,558,200] 5,447,500 [1,634,250]	[81,738] 81,306	[172,000] 162,400
(2)基盤研究(S)	[990] 1,045	[425] 421	[42.9] 40.3	[12,050,100] 12,075,400 [3,622,620]	[28,353] 28,683	[94,600] 105,100
(3)基盤研究(A)	[4,167] 3,928	[2,220] 2,067	[53.3] 52.6	[18,471,700] 17,986,900 [5,396,070]	[8,321] 8,702	[32,000] 32,900
(4)基盤研究(B)※1	[17,752] 17,596	[9,393] 8,939	[52.9] 50.8	[33,080,533] 33,938,550 [10,181,565]	[3,522] 3,797	[13,500] 12,800
(5)基盤研究(C)※2	[64,621] 68,725	[36,081] 37,267	[55.8] 54.2	[38,384,070] 38,324,100 [11,497,230]	[1,064] 1,028	[3,400] 3,200
(6)挑戦的萌芽研究※2	[4,949] 1,472	[4,949] 1,472	[100.0] 100.0	[4,590,400] 1,049,500 [314,850]	[928] 713	[2,300] 1,900
(7)挑戦的研究(開拓)	[1,116] 988	[94] 182	[8.4] 18.4	[643,900] 1,142,700 [342,810]	[6,850] 6,279	[16,200] 17,500
(8)挑戦的研究(萌芽)※2	[14,491] 13,718	[1,586] 3,043	[10.9] 22.2	[3,769,800] 6,248,000 [1,874,400]	[2,377] 2,053	[4,700] 4,500
(9)若手研究(A)※1	[2,874] 980	[1,459] 980	[50.8] 100.0	[6,878,400] 3,675,917 [1,102,775]	[4,714] 3,751	[18,100] 13,200
(10)若手研究(B)※2	[28,353] 9,302	[14,875] 9,270	[52.5] 99.7	[15,823,970] 8,424,400 [2,527,320]	[1,064] 909	[3,200] 2,600
(11)若手研究※2、3	[-] 20,369	[-] 6,256	[-] 30.7	[-] 8,273,100 [2,481,930]	[-] 1,322	[-] 3,100
(12)研究活動スタート支援	[4,700] 4,695	[1,770] 1,775	[37.7] 37.8	[1,774,020] 1,799,463 [539,839]	[1,002] 1,014	[1,500] 1,500
(13)奨励研究	[4,065] 3,657	[732] 561	[18.0] 15.3	[349,981] 268,046	[478] 478	[820] 580
研究成果公開促進費	[1,137] 1,082	[475] 451	[41.8] 41.7	[1,319,900] 1,056,000	[2,779] 2,341	[42,100] 35,300
研究成果公开发表	[103] 91	[45] 46	[43.7] 50.5	[126,800] 85,500	[2,818] 1,859	[9,900] 9,000
国際情報発信強化	[103] 94	[73] 65	[70.9] 69.1	[477,800] 341,700	[6,545] 5,257	[42,100] 35,300
学術図書	[778] 758	[287] 282	[36.9] 37.2	[461,700] 443,900	[1,609] 1,574	[10,200] 7,800
データベース	[153] 139	[70] 58	[45.8] 41.7	[253,600] 184,900	[3,623] 3,188	[9,400] 9,000
合計	[149,381] 147,717	[74,127] 72,751	[49.6] 49.3	[142,694,974] [41,775,322] 139,709,576 [41,515,659]	[1,925] 1,920	[172,000] 162,400

(注1) 上段〔 〕内は、前年度を示す。

(注2) [] は、間接経費(外数)。

(注3) 「特別研究員奨励費」、基盤研究(B・C)「特設分野研究」「新学術領域研究(研究領域提案型)」は含まない。

なお、基盤研究(B・C)「特設分野研究」の平成30年度新規分の応募・採択状況は、応募数(1,218件)、採択数(100件)、配分額(直接経費 294,800千円、間接経費 88,440千円)であった。

(注4) ※1は、平成24年度から平成26年度は一部基金化研究種目であったため、「配分額」欄及び「1課題あたりの配分額」欄の平成24年度から平成26年度採択課題は、当初計画に対する配分額を計上。

(注5) ※2 基金種目であるため、「配分額」欄及び「1課題あたりの配分額」欄には、当初計画に対する配分額を計上。

(注6) ※3 平成30年度から公募を開始。

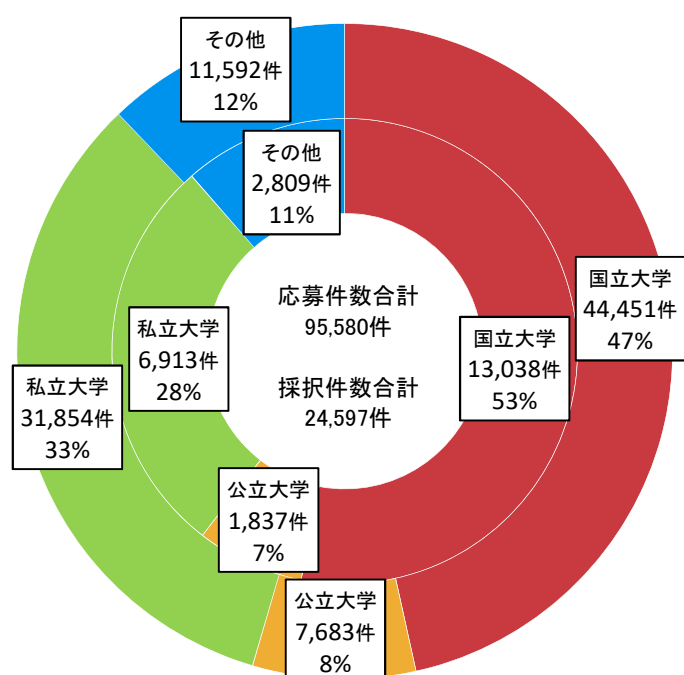
(3) 研究機関種別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
国立大学	44,451	13,038	29.3%	34,257,900	2,628
公立大学	7,683	1,837	23.9%	3,170,700	1,726
私立大学	31,854	6,913	21.7%	10,970,400	1,587
その他	11,592	2,809	24.2%	6,765,700	2,409
短期大学、 高等専門学校	3,234	372	11.5%	540,000	1,452
大学共同利用機関法人	961	314	32.7%	965,100	3,074
国公立試験研究機関	1,128	307	27.2%	552,900	1,801
特殊法人、 独立行政法人等	5,329	1,553	29.1%	4,058,400	2,613
一般社団法人、 一般財団法人	775	229	29.5%	470,100	2,053
企業等の研究所	165	34	20.6%	179,200	5,271
合計	95,580	24,597	25.7%	55,164,700	2,243

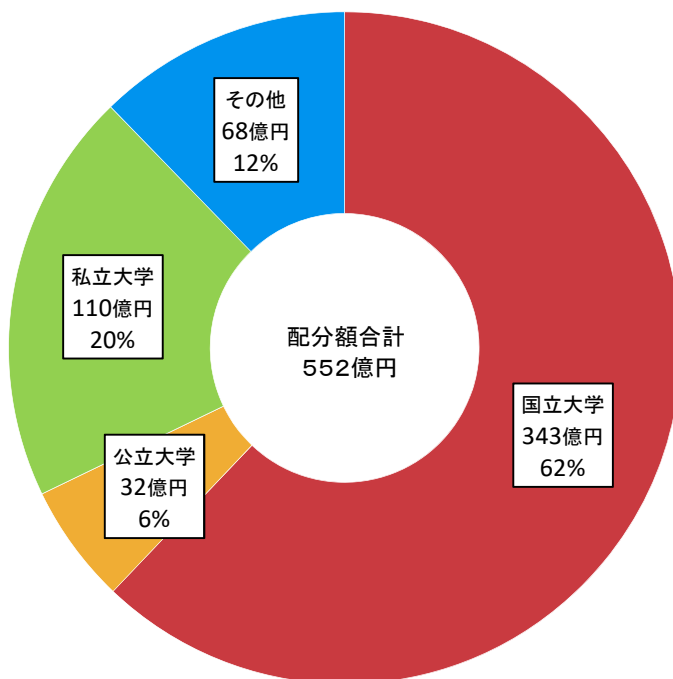
※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」

応募・採択件数

※外円は応募件数、内円は採択件数



配分額

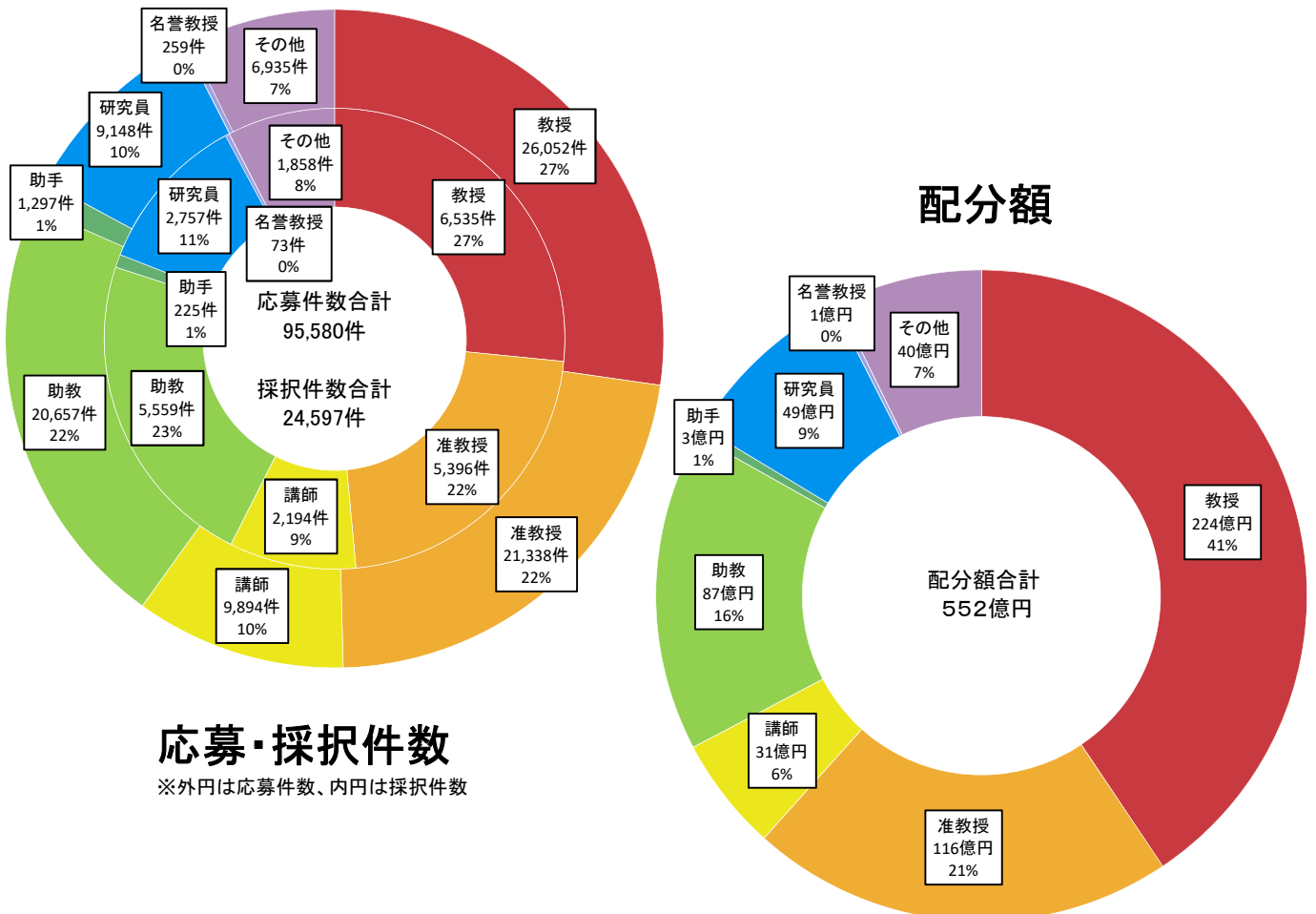


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

(4)職種別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
教授	26,052	6,535	25.1%	22,395,400	3,427
准教授	21,338	5,396	25.3%	11,605,600	2,151
講師	9,894	2,194	22.2%	3,127,100	1,425
助教	20,657	5,559	26.9%	8,733,200	1,571
助手	1,297	225	17.3%	281,100	1,249
研究員	9,148	2,757	30.1%	4,884,800	1,772
名誉教授	259	73	28.2%	137,100	1,878
その他	6,935	1,858	26.8%	4,000,400	2,153
合計	95,580	24,597	25.7%	55,164,700	15,626

※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」

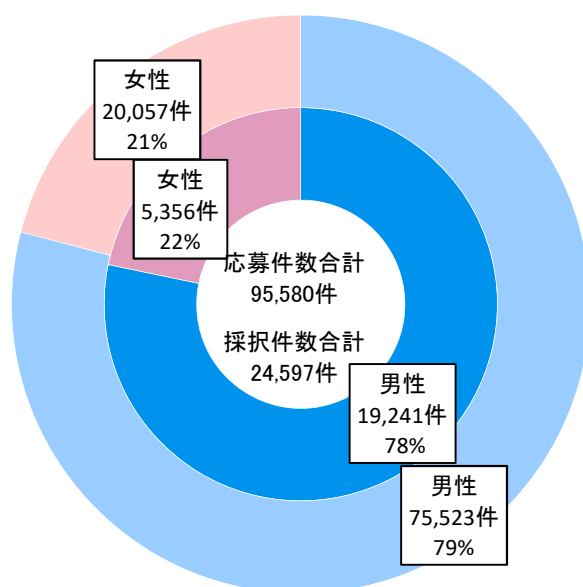


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

(5) 男女別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
男性	75,523	19,241	25.5%	47,395,100	2,463
女性	20,057	5,356	26.7%	7,769,600	1,451
合計	95,580	24,597	25.7%	55,164,700	3,914

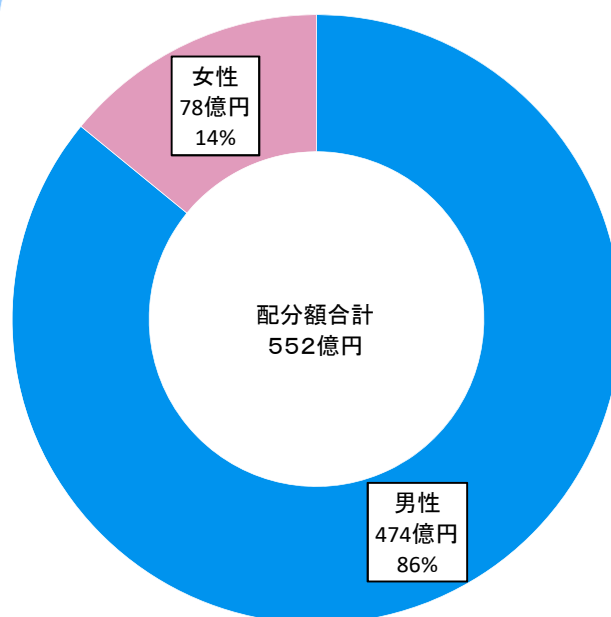
※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」



応募・採択件数

※外円は応募件数、内円は採択件数

配分額

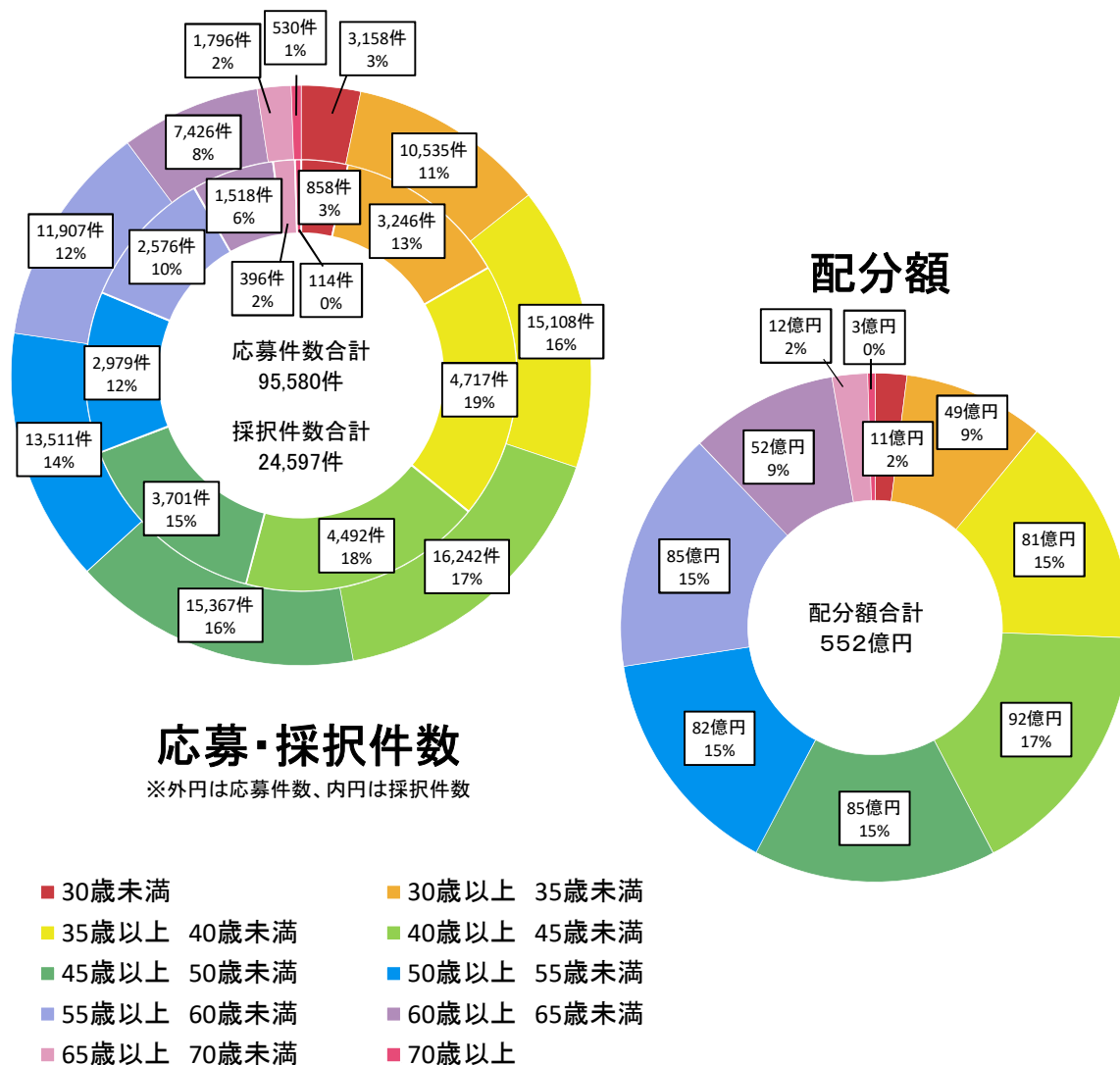


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

(6) 年齢別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
30歳未満	3,158	858	27.2%	1,113,100	1,297
30歳以上 35歳未満	10,535	3,246	30.8%	4,939,600	1,522
35歳以上 40歳未満	15,108	4,717	31.2%	8,093,100	1,716
40歳以上 45歳未満	16,242	4,492	27.7%	9,202,600	2,049
45歳以上 50歳未満	15,367	3,701	24.1%	8,508,200	2,299
50歳以上 55歳未満	13,511	2,979	22.0%	8,168,800	2,742
55歳以上 60歳未満	11,907	2,576	21.6%	8,461,600	3,285
60歳以上 65歳未満	7,426	1,518	20.4%	5,179,000	3,412
65歳以上 70歳未満	1,796	396	22.0%	1,244,200	3,142
70歳以上	530	114	21.5%	254,500	2,232
合計	95,580	24,597	25.7%	55,164,700	23,695

※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」



※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。